

止まり木



1.17に想う



1995年、1月17日午前5時46分。6434人の尊い命が犠牲になった阪神淡路大震災の発生から29年が経ちました。改めて追悼の意を表するとともに犠牲者の方々のご冥福をお祈りいたします。

みなさんはもちろん生まれていなかった時代ですが、忘れてはならない歴史として少し詳しく説明をします。「**阪神淡路大震災**」は**1995年(平成7年)1月17日5時46分52秒**に兵庫県淡路島北部(あるいは神戸市垂水区)沖の明石海峡(北緯34度35.9分、東経135度2.1分、深さ16km)を震源として、マグニチュード7.3の震度で起こった兵庫県南部地震のことです。近畿圏の広域が大きな被害を受けました。特に震源に近い神戸市の市街地(東灘区、灘区、中央区(三宮・元町・ポートアイランド)、兵庫区、長田区、須磨区)の被害は甚大で、近代都市での災害として日本国内のみならず、世界中に衝撃を与えました。犠牲者は6,434人にも達し、第二次世界大戦後に発生した地震災害としては東日本大震災に次ぐ被害規模でした。校長先生は当時、大阪の南の方に住んでいましたが、大きな揺れで目を覚ましました。何かが落ちてきたのかと思うぐらいの衝撃、何をどうしていいかわからず、しばらく布団からも出れず、揺れが収まるのを待つしかありませんでした。今もあの瞬間のことははっきりと覚えています。

昨日、兵庫県伊丹市の昆陽池(こやいけ)公園ではボランティア団体が主催する「追悼のつどい」が開かれ、約300人が震災発生時刻に黙とう。犠牲者の数と同じ6434本のろうそくで、石川県と兵庫県をつなぐ人々を表す図柄を作って火をともしました。震災から29年がたち「忘れてしまわないように」という思いや、思い出すのがつらく「忘れない」人たちの思い、そして「忘れられてしまう」といった危機感を持っておられる方がまだ多数います。そんな思いを当時を知らないみんなにも少しでも感じてほしいと思っています。

今日、石川県輪島市では中学生が白山市というところに親や兄弟から離れて**集団避難**します。被災地の教育を軌道に戻すための取り組みで、約250人がその呼びかけに応じたそうです。まだまだ、当たり前前(あたりの)のことが当たり前前(あたりの)にできない中学生が石川県には多数います。どうか、みんなは**あたり前のことがあたり前にできることに感謝**して、1日1日をより一層大切に過ごしてください。